

宮崎県都城市 市政トピックス

令和5年6月2日

全国トップクラスの周産期医療体制

周産期に亡くなった胎児や新生児の割合である周産期死亡率が、宮崎県はかつて全国ワーストであったが、本市では、市内の産科医療施設が全国初となる「分娩時医療情報ネットワークシステム」を構築し、全国トップクラスの医療体制で、母子の命を守っています。

●分娩時医療情報ネットワークシステムとは

本市を中心とした都城圏域では、宮崎大学との地域医療の連携のほかに、平成24年6月に一次医療施設と二次医療施設の連携を強化する、全国初の「分娩時医療情報ネットワークシステム」が構築されました。

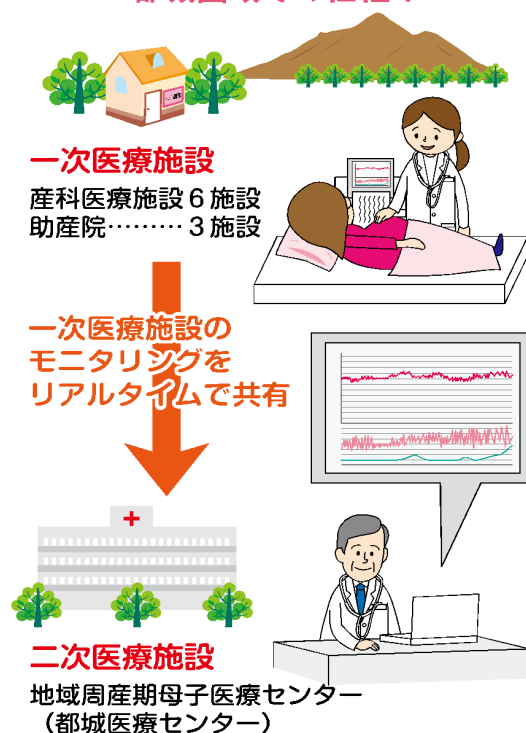
本システムは、一次医療施設と二次医療施設をインターネット回線で結び、危険な状態の妊婦と胎児の状況を確認できる、「胎児心拍数モニタリング」をリアルタイムで共有しています。このシステムの導入によって、一次医療施設と二次医療施設の間で、より具体的な相談や連絡が取りやすくなり、迅速な判断や異常時の連携と搬送ができる医療体制となっています。

●全国トップクラスの医療体制

- 令和2年における周産期死亡率の全国平均は3.2‰(パーミル)であるのに対して、本圏域では1.3‰と全国平均を下回っています。今後も安心して出産できるまち・都城を目指します。

※‰(パーミル)とは、1000分の1を1とする単位(千分率)であり、1‰は0.1%

都城圏域での仕組み



【問い合わせ】 健康課 電話 23-2056

・参考（周産期死亡件数及び死亡率）

	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	件数	率	件数	率	件数	率
全国	2,999	3.3‰	2,955	3.4‰	2,664	3.2‰
宮崎県	22	2.6‰	20	2.5‰	19	2.5‰
管内	4	2.5‰	5	3.2‰	2	1.3‰
都城市	3	2.2‰	5	3.7‰	2	1.5‰
三股町	1	3.8‰	0	0.0‰	0	0.0‰